

平成29年度事務事業進行管理表(自治振興センター用)
(環境ISO管理)

事務事業名	施設管理・一般業務
センター名	上郷自治振興センター

1 環境側面及びそれに伴う環境影響

通常時	非通常時	緊急事態	環境側面	影響評価						著しい環境側面
				1	2	3	4	5	6	
	○		フロンの漏えい	×	—	×	—	—	×	
○			紙の消費	×	×	×	×	×	×	
○			電気・LPガスの消費	×	—	×	—	×	—	
		○	建物火災	×	×	—	—	—	—	
		○	地震による建物崩壊	—	×	—	—	—	—	
		○	灯油流出	×	—	—	×	—	×	
		○	LPガスの漏えい	×	—	—	—	—	—	
	○		公用車の廃棄	×	×	—	—	×	×	

【作成上の注意】

- 「通常時」は通常の業務・作業の条件下で発生する可能性が大きい場合、「非通常時」は業務・作業の開始・終了時、停止時、故障時などの条件下で発生する可能性が大きい場合をいいます。
- 「環境側面」は、環境と相互に作用する、又は相互に作用する可能性のある組織の活動又は製品又はサービスの要素です。
- 影響評価は、1：典型7公害(大気、水質、土壌、騒音、振動、地盤沈下、悪臭)、2：廃棄物発生/抑制、3：地球温暖化の進行/抑制、4：自然の破壊/保全(緑地、生物多様性、水辺)、5：資源の枯渇/保全、6：その他(有害物質、景観)の分類ごとに実施します。
- 評価基準は、分類ごとに、環境側面が与える環境影響について、影響範囲、発生頻度、影響の重大性(最悪を想定)を考慮して判断します。
- 影響評価の結果の表示は、良い影響大：○○、良い影響小：○、影響なし：—、悪い影響小：×、悪い影響大：××と表記します。
- 影響評価の内容により、課長が著しい環境影響があると判断した場合は、「著しい環境側面」とし、○を入力します。

2 環境側面に伴う順守義務

法令、例規、利害関係者のニーズと期待のうち順守すると決定したもの	要求事項	順守評価	
		中間	年間
廃棄物の処理及び清掃	産業廃棄物保管場所における廃棄物の適切な保管(分別の徹底、飛散・流出・浸透・悪臭防止措置)	○	○
〃	産業廃棄物保管場所の表示(60cm×60cm)	○	○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化	業務用冷凍空調機器(エアコン・冷凍・冷蔵機器)の適正管理と点検等の実施	○	—
消防法に関する施設管理	防火管理者の選任	○	—
〃	消防用設備の点検(1回/年)及び結果報告	—	—
〃	避難訓練計画の届出及び訓練の実施(1回/年又は2回/年)	×	×
灯油タンク等の管理	貯蔵、取り扱い、届出、自主点検の実施(南信州広域連合火災予防条例)	○	—
駐車施設の油水分離槽の設置	上郷黒田、飯沼、別府の区域内における駐車施設(100㎡以上)への油水分離槽の設置(飯田市環境保全条例施行規則)	○	○
使用済み自動車の再資源化	リサイクル料金の支払い引き取り業者への引き渡し	—	—

- 順守評価が必要なものについて記載します。
- 組織の状況等の検討表の「2 利害関係者のニーズと期待」において「うち、順守義務とするもの」と決定したものを転記します。
- 順守評価結果は、良：○、否：×、期間中に要求事項に該当する内容なし：—で表示します。

3 リスクと機会(上記1及び2に関係するもの)

リスク (マイナス要素)	紙・電気等の消費、産業廃棄物の排出、火災の発生、灯油の流出、フロン類の漏出
機会 (プラス要素)	グリーン商品の購入

4 環境目標

番号	区分	環境目標 ①実施事項(何を) ②達成期限(いつまでに) ③結果の評価方法(どのような水準に)	年間スケジュール 環境目標達成のための 手段・方法・手順	中間評価		年間評価	
				進捗状況・成果 (監視・測定・分析・評価)	達成 状況	進捗状況・成果 (監視・測定・分析・評価)	達成 状況
1	①	紙の消費量の抑制	両面印刷、裏紙利用の推進、会議資料の簡略化に努める。 半期ごとに検証する。	過去3年と比較すると総使用量が若干高めなので、全職員に改めて両面印刷、裏紙利用の推進等の徹底を図る必要がある。	76%	年間の紙の消費総量が63.06kgであり、目標値を上回る結果となってしまった。	97%
	②	年間を通じて					
	③	目標値61.4kg/yを以下にする					
2	①	ごみリサイクル率	資源ごみとなり得る燃えるごみ及び埋め立てごみの分別の徹底により、燃えるごみ及び埋め立てごみの抑制を図る。半期ごとに検証する。	庁舎引っ越しのため昨年を上回る燃えるごみ及び埋め立てごみが出たことにより、80%以上は毎月達成できなかった。	65%	上半期に比べ下半期の燃やすごみの量は9/1以下、埋め立てごみの搬出は0だったが、目標値を超えられなかった。	70%
	②	年間を通じて					
	③	目標値80%以上にする					
3	①						
	②						
	③						

平成29年度事務事業進行管理表(自治振興センター用)
(環境ISO管理)

事務事業名	団体活動の支援
センター名	上郷自治振興センター

1 環境側面及びそれに伴う環境影響

通常時	非常時	緊急事態	環境側面	影響評価						著しい環境側面
				1	2	3	4	5	6	
○			野底山財産区有林の森林整備	○	—	○	○	○	○	
○			野底山森林公園の活用	—	—	○	○	○	—	
○			ごみゼロ運動の取組の展開	×	—	—	○	—	○	

【作成上の注意】

- 「通常時」は通常の業務・作業の条件下で発生する可能性が大きい場合、「非常時」は業務・作業の開始・終了時、停止時、故障時などの条件下で発生する可能性が大きい場合をいいます。
- 「環境側面」は、環境と相互に作用する、又は相互に作用する可能性のある組織の活動又は製品又はサービスの要素です。
- 影響評価は、1：典型7公害(大気、水質、土壌、騒音、振動、地盤沈下、悪臭)、2：廃棄物発生/抑制、3：地球温暖化の進行/抑制、4：自然の破壊/保全(緑地、生物多様性、水辺)、5：資源の枯渇/保全、6：その他(有害物質、景観)の分類ごとに実施します。
- 評価基準は、分類ごとに、環境側面が与える環境影響について、影響範囲、発生頻度、影響の重大性(最悪を想定)を考慮して判断します。
- 影響評価の結果の表示は、良い影響大：○○、良い影響小：○、影響なし：—、悪い影響小：×、悪い影響大：××と表記します。
- 影響評価の内容により、課長が著しい環境影響があると判断した場合は、「著しい環境側面」とし、○を入力します。

2 環境側面に伴う順守義務

法令、例規、利害関係者のニーズと期待のうち順守すると決定したもの	要求事項	順守評価	
		中間	年間

- 順守評価が必要なものについて記載します。
- 組織の状況等の検討表の「2 利害関係者のニーズと期待」において「うち、順守義務とするもの」と決定したものを転記します。
- 順守評価結果は、良：○、否：×、期間中に要求事項に該当する内容なし：—で表示します。

3 リスクと機会(上記1及び2に関係するもの)

リスク (マイナス要素)	山林火災、自然災害(山林土砂崩落等)
機会 (プラス要素)	森林保全、自然との親和、生活意識の向上

4 環境目標

番号	区分	環境目標 ①実施事項(何を) ②達成期限(いつまでに) ③結果の評価方法(どのような水準に)	年間スケジュール 環境目標達成のための 手段・方法・手順	中間評価		年間評価	
				進捗状況・成果 (監視・測定・分析・評価)	達成 状況	進捗状況・成果 (監視・測定・分析・評価)	達成 状況
1	①	森林整備等への参加者数	植樹祭、大境廻り、林道整備、財産区議員作業、モーリーの森応援隊による作業の実績をカウントする。	植樹祭(37) 議員一般作業(9+8) 大境廻り(37) 林道整備(323+334) 計748名	63%	(後半)美化活動(316) キャンプ場整備他(43) マレットG場他(37) 落ち葉掃き(22) 計418名 年計1166名	99%
	②	年間を通じて					
	③	H26実績数(1,180人)を確保					
2	①	森林公園を活用した事業への参加者数	野底山の自然に触れる機会を設ける。内外への情報発信により多くの来場者を得る。	マレットゴルフ大会(36) 保育園体験受入(220) 『水』はどこから(21) 遊歩道を歩こう!(39) 野鳥観察会(25) 樹木学習(18) 計359名	179%	もみじライトアップ(2200) マレットG場他(37) ウォークキング(32) 計2232 年計2591	129 6 %
	②	年間を通じて					
	③	H26~28の平均実績数(200人)を確保					
3	①	ごみゼロ運動の参加者数	市民協働によるごみゼロ運動として、春と秋の2回、環境美化活動を行い、その実績をカウントする。	春ごみゼロ運動 参加者704名	53.2%	秋ごみゼロ運動 参加者604名 春秋合計1,308名	99.0%
	②	年間を通じて					
	③	H26実績数(1,321人)以上を確保					